

2026年第18週の報告です。

定点当り報告疾患は、山城北の咽頭結膜熱、南丹のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、乙訓の水痘が、今週も継続して警報レベルとなっています。

全数把握対象疾患は、結核が7件、腸管出血性大腸菌感染症が2件、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・日本紅斑熱・レジオネラ症・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・劇症型溶血性レンサ球菌感染症・梅毒がそれぞれ1件、侵襲性肺炎球菌感染症が4件報告されました。

さて、今週は京都府で2026年最初の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の報告がありました。

SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることによって主に起こる感染症です。マダニの吸血による直接の感染以外にも、ウイルスに感染したネコなどの動物の体液(血液や唾液など)を介した感染例も国内で報告されています。

潜伏期間は6~14日で、典型的には発熱、倦怠感、頭痛などの症状で発症し、続いて嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状が出現します。致死率は高く、国内症例を対象とした疫学調査で27%と推定されています。

京都府では例年、北部地域(丹後・中丹)を中心にSFTSの発生が1~6件/年ほど報告されています。南部地域では、統計を取り始めた2013年から2025年7月に宇治田原町で初めて報告されるまで、発生は確認されていませんでした。今回のケースは、京都市を推定感染地域とするSFTSの発生であり、SFTSウイルスの感染地域が府南部で徐々に拡大していることが懸念されます。

現状、有効なSFTSウイルスのワクチンはありません。感染を予防するには、マダニに刺されないようにすることが重要です。具体的には、野外活動において長袖・長ズボンを着用するなどして肌の露出をなるべく少なくすることや、ディート又はイカリジンを主成分とする市販の虫よけ剤(忌避剤)を使用することなどが挙げられます。

マダニは暖くなる春頃から活発に活動を始めます。野山や民家の裏山、畑、あぜ道などの草むらに入るときは、マダニが潜んでいる可能性があるので十分に注意してください。もし、吸血中のマダニに気が付いた場合は、自分で除去しようとせず、皮膚科などの医療機関を受診し、適切な処置を受けるようお願いいたします。

○SFTSの詳細情報はこちら：[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)／京都府感染症情報センター](#)

○マダニ対策の詳細情報はこちら：[マダニ対策、今できること | 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト](#)